

ちばの地域福祉

「重層的な相談支援体制をつくる」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 副会長 吉野 智

中核地域生活支援センターが千葉県で誕生したのは平成16年。当時は地域包括支援センターも基幹相談支援センターもありませんでした。現在は生活困窮者自立支援法も施行され、地域には様々な相談窓口が誕生しています。だからこそ、「どこに相談に行けば良いかわからない」「ここは担当が違うとたらい回しにされて疲れ果てた」「どこに相談しても解決しない」という声が絶えることはなく、利用する側からみれば決して万全で包括的な相談支援体制が構築されているとは言い難いのが現状ではないでしょうか。また、相談内容や対象となる世帯構成も複雑に多様化しており、縦割り相談機能では解決に至らないものも顕在化してきていると言えます。つまり、現行の相談支援機能を繋ぎ、バックアップしていく中核地域生活支援センターの機能はますます必要度が高まっているとも言えます。

社会福祉関連制度は変遷を続け、10年前に比べれば確実に機能はバージョンアップし、それに伴って社会資源は充実してきています。しかし一方で、生活で抱える諸問題は複雑化し、複合的な生活ニーズとして顕在化してきているとすると、複合化する生活ニーズと多様化する制度や社会資源を適切にマッチングさせ、生活のしづらさの要因となる問題を解決していくためには、包括的な相談支援体制を作っていくことが当然必要となるわけです。つまり、どれだけ制度が成熟しても、なおぼれ落ちるニーズは必ずあると言えます。しかし、その部分があるのだと気付いているかどうか。そして地域の状況を広く評価することができるかどうか。これによって積み上げていけるものはだいぶ違ってくるように思います。そういった視点から見ても「誰ひとり見捨てない」をコンセプトとしている千葉県の中核地域生活支援センター事業は、手前味噌ではありますが、重層的な相談支援体制に欠かせない機能ではないかと考えています。

ちから ちばの福祉力・社会資源

誰もが、ありのままに・その人らしく、地域で暮らすことができる社会の実現に向けて

千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

会長 大越将司

障害者グループホーム等支援事業は、平成 17 年より千葉県が全国に先駆けて創設した事業で、今年丸 10 年を迎えます。千葉県内の障害者グループホーム及び生活ホームの量的拡充と質の向上を図ることで、障がいをお持ちの方の地域での生活を移行・促進することを目的としています。現在千葉市・船橋市・柏市を除く 13 の障害保健福祉圏域に 12 名の支援ワーカーが配置され、空きホームの情報提供、開設支援や運営についての相談、世話人向けの勉強会等といった業務を日々行っております。また県庁での研修会は毎月開催され、障害福祉課担当職員と全圏域の支援ワーカーは単なる「顔の見える関係」に留まらない、一つのチームとして、この事業に取り組んでおります。

グループホーム等の定員数は大きく増加しています。この事業が始まった平成 17 年当時、県内の定員数は 1,186 人でしたが、平成 25 年度は 3,462 人と 8 年で約 3 倍に伸びました。今年度出された「第五次千葉県障害者計画」でも、グループホームの整備は最重要施策の一つと位置付けられ、平成 29 年度 4,680 人の数値目標が掲げられました。グループホームを開設する事業者は、社会福祉法人や医療法人等の大きな組織はもちろんですが、NPO 法人や有限会社・株式会社といった小さな事業者など様々です。支援ワーカーは、特に後者の小規模な事業主の方々の開設支援を行いながら、関係性を築いてきました。この関係性を礎に、千葉県内のグループホームで起こっている課題を吸い上げることが、ワーカーの次なる使命と捉えております。

「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を約 8 割の県民が知らないという調査結果が先日報道されました。またグループホーム建設に反対する住民運動の報告も聞き及んでおります。障がいをお持ちの方とそうでない方が、共存できる社会・地域づくりに少しでも貢献できれば幸いです。

行け！木更津市ケアマネジメント研究会

木更津市ケアマネジメント研究会

会長 中山太一郎（ケアマネのいる場所 入道雲）

まず、当会の成り立ちとして私たち、木更津市ケアマネジメント研究会は介護支援専門員（ケアマネジャー）の職能団体として平成12年に発足して以来、今年で16年目を迎えております。当会が主催する研修会は今回で80回目となりました。構成としては木更津市を中心とする介護支援専門員が約190名、会員登録していただいております。



千葉県中核地域生活支援センターとの繋がりとして講師に君津ふくしネット西山所長を迎えた経緯があります。また、君津ふくしネット職員が当会執行部役員としても、ご協力して下さっており千葉県中核地域生活支援センターとの協力体制は強固なものといえます。そして、

日頃の私たちの業務における困難事例に対して千葉県中核地域生活支援センター職員の献身的で積極的な援護におかれましては木更津市ケアマネジメント研究会会員を代表しまして感謝の意を述べたいと思います。

私たち介護支援専門員は常に新しい情報に対して強い嗅覚を持ち、ケアマネジメントのスキル向上を限りなく研磨しなくてはなりません。その後方支援が当会の役割であると考えております。法令の確認、知識の修得、新サービスや社会資源の紹介、グループワーク等、研修内容は様々です。数年前からは多職種や総合病院、医師会との連携もかなり活発であります。



最後になりますが一言。この先、様々な社会問題への心構えとして、先人たちの歴史から学べるものがあるかと考えます。“おもしろきこともなき世をおもしろく” 私の好きな高杉晋作の言葉です。

お知らせ

ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

中核地域生活支援センター大会 in 2015

【内容】平成27年4月、生活困窮者自立支援法が施行され、全国各地でその地域の特性を生かしたセーフティネットの仕組みづくりがスタートしました。これまでの社会福祉の諸制度では取り上げることができなかった課題に迫る戦後70年の節目の年にふさわしい社会の挑戦ともいえます。本大会では地域社会の現状と全国的な取り組みの状況を踏まえて生活困窮者自立支援法の有用性や課題について共通理解を図りながら、貧困や孤立を生まない地域社会づくりの可能性を探っていきます。

【プログラム】基調講演：「“助けて”と言える社会をめざして」
講師：奥田 知志 さん（一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表）

講師の奥田知志さんは、NPO 法人抱樸理事長としてホームレスの人々が路上生活を脱し、自らの足で自立するのを支援。「無縁社会」と呼ばれる深刻な現実の中にあっても、真の「絆」を求め、その必要性を訴え続ける。昨年、発足した生活困窮者自立支援全国ネットワークの代表も務め、「ホームレスを生まない社会を創造する」ことを目指し、精力的な活動を行っている。

報 告：中核地域生活支援センター実践報告

シンポジウム：「貧困や孤立を生まない地域社会づくりを目指して」

パネリスト：三雲葉子さん（学校法人中山学園 理事長）

：飯田大輔さん（社会福祉法人福祉楽団理事・常務理事）

：大戸優子さん（いちほら生活相談サポートセンター長）

コメンテーター：奥田知志さん

コーディネーター：野沢和弘さん（毎日新聞論説委員・中核地域生活支援センター評価委員長）

【日時】平成27年7月24日（金）10：00～16：00

【会場】千葉市生涯学習センター（千葉市中央区弁天3丁目7番7号）

【定員】先着200名 **【参加費】**1,000円 **【申込締切】**7月13日（月）

【申込】お名前・ご所属・ご連絡先・障害対応の必要の有無・特に配慮が必要なことをご記入のうえ、下記問合せ先まで FAX またはメールにてお申込みください。

【問合せ】中核地域生活支援センター『夷隅ひなた』

TEL：0470-60-9123 FAX：0470-60-9124

E-mail：hinata-isumi@sea.plala.or.jp

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：夷隅ひなた（夷隅圏域）いすみ市大原8927-2

TEL:0470-60-9123

FAX:0470-60-9124

編集：君津ふくしネット（君津圏域）富津市青木2-16-14

TEL:0439-27-1482

FAX:0439-88-1481

※内容についてのお問い合わせは、君津ふくしネット（担当：玉手）までお願いします。